

国際交流センターだより vol.13

「第7回 英語で学ぶ医学・看護学セミナー」（医学科2年生対象）を開催しました

免疫学 教授 伊藤 利洋

本学が掲げる英語教育の充実を推し進める中、コロナ禍にて海外との往来や交流が困難となりました。そのような状況下においても学生が海外との交流の機会を持つことができるよう、英語で学ぶ医学・看護学セミナーはWebにて始まりました。そして今回は、第7回にして初めて奈良医大での現地開催にて、連携大学でもある米国ミシガン大学の鎌田信彦先生に本学にお越しいただき、「医学研究と医学研究留学のススメ」と題して、医学研究ならびに研究者として成長するための海外研究留学の重要性についてご講演頂きました。医学科2年生は海外を含めたりサーチクラークシップを控えていることもあり、非常に活発な英語での質疑応答が行われました。本セミナーを通して、本学の医学生・看護学生が臨床英語・国際化の重要性をさらに認識し、海外に目を向けるきっかけとなればと思っております。講演いただきました鎌田先生に感謝申し上げますとともに、引き続き皆様方には本学の英語教育にご理解・ご協力賜りますようお願い申し上げます。



ミシガン大学消化器内科 准教授
大阪大学免疫学フロンティア研究センター 教授

鎌田 信彦

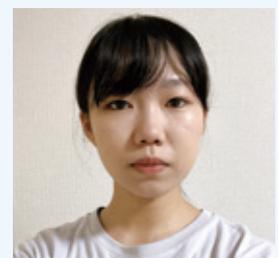
Thank you for giving me the opportunity to speak at Nara Medical University this past July. I enjoyed visiting this historic city and meeting with faculty and students at the university. I gave a lecture on "How to conduct biomedical research" and "Pros and Cons of studying abroad as a biomedical researcher." Summer in Japan was extremely hot, but I felt the students' enthusiasm was even hotter than outside. During my lecture, students actively participated and asked many questions in English. In my experience, this is not very common. In Japan, students are often hesitant to speak English in public. In other words, it is evidence that medical English education at Nara Medical University is taking root in the students. I strongly hope that my lecture will be one of the reasons for students to become interested in basic research and study abroad.



学生の声

医学科2年 和出 陽南

どのような思考や計画を経て研究を進めていくのかについて、鎌田先生が実際された研究を例に話されていて、私自身が今後も研究活動を続けていくうえで非常にためになるご講演でした。海外で研究をする人はもちろん、日本にいても先行研究を調べる際に英語論文を読む必要があるため、研究活動に英語は不可欠だと思います。将来の研究活動を見据えて、英語学習を怠ってはいけないと改めて身が引き締まりました。



「第8回 英語で学ぶ医学・看護学セミナー」（医学科1年生対象）を開催しました

未来基礎医学 准教授 森 英一郎

ルクセンブルク大学の Jens Schwamborn 先生とは、コロナ禍前の2019年の春頃に京都の国際学会で初めて出会いました。きっかけは、私達の研究成果と類似の内容がプレプリントとして bioRxiv に公開になったことです。その内容を見て、責任著者である Schwamborn 先生に連絡を取ったところ、私達の研究成果に興味を持って下さり、そこから共同研究に発展しました。2021年からは、本学の招聘教授に御就任頂き、様々な学術的交流に御貢献頂いております。この度、ポストコロナで、4年振りに日本を訪問される機会に、本学での講演を頂くことができました。医学科1年生に対して、パーキンソン病の病態モデルを用いた研究成果についてご紹介頂き、学生からの質問にも丁寧に答えて頂きました。



ルクセンブルク大学 ルクセンブルクセンター システム生物学 発生細胞生物学 教授

Jens C. Schwamborn

I am truly appreciative for the wonderful chance to address the audience at Nara Medical University. My recent visit to Nara has left an indelible impression on me, and I am genuinely thrilled about the potential it holds for forging meaningful collaborations ahead. The enthusiasm and dedication exhibited by the students during my time there were nothing short of remarkable. The quality of their engagement and the insightful discussions we shared underscore the promising future that lies ahead.

Looking forward, I am particularly excited about the prospect of welcoming students from Nara University to my lab at the Luxembourg Centre for Systems Biomedicine. Together, we can embark on a journey of advanced learning and hands-on experience, enhancing their skills in cutting-edge cellular models for in vitro disease modeling. This cross-cultural exchange of knowledge is bound to enrich both institutions and contribute to scientific progress in a profound manner.

Once again, I extend my heartfelt gratitude for the warm reception and the opportunity to connect with the brilliant minds at Nara Medical University. I eagerly await the chance to solidify these nascent ties into flourishing collaborations that will undoubtedly yield innovative outcomes.



学生の声

医学科1年 原田 晶

「病気をシステムとして捉えたい」このように感じた。生物は驚異的に複雑だが、数学的記述による原理解明で直感的な理解が可能なのだ。そして生体内システムは、講義で紹介されたような病態生理学的プロセスの再現による疾患メカニズムの研究を積み重ねて解明されるものだろう。将来、国際的な環境で革新的な医療の土台になる研究を考えているが、この講義で言語の壁を体感した。今の学問を将来の糧にすべく研鑽を積んでいきたい。



国際交流センターだより vol.13

海外リサーチ・クラークシップ成果報告：ジャーナルに掲載されました

海外リサーチ・クラークシップ（2年次）参加後も研究活動を続けている本学学生の研究成果をご紹介します。

2019年度、アメリカ・テキサス大学の藤川ラボで、原田安美さんが参加した研究が、論文として発表されました。ご指導を賜りました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

Molecular Metabolism

- ・論文タイトル: VMHdm/c^{SF-1} neuronal circuits regulate skeletal muscle PGC1- α via the sympathoadrenal drive
- ・Publication: 24 August 2023
- ・DOI: 10.1016/j.molmet.2023.101792

医学科6年 原田 安美

2年次のリサーチクラークシップでテキサス大学サンアントニオ校にて行った研究について、「視床下部ニューロンの骨格筋制御とその機序」に関する論文の共著者としてご掲載いただきました。本プロジェクトを通して、藤川先生には多くのことを教えていただき、その中に伝えることの大切さがあります。何か新しいことが分かった時も或いは上手くいかなかった時も、その事実をわかりやすく伝えること、伝えなければ意味を為さないことを学びました。今後医師として働く上で広く通ずる部分があり、ずっと大切にしたいと思います。最後に、ご指導いただいた藤川先生、森先生、国際交流センターの皆様、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。今後もこの経験を活かし精進して参ります。



MESSAGE

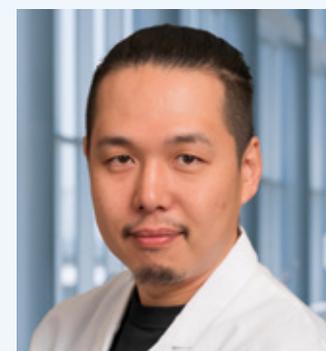
未来基礎医学 准教授 森 英一郎

原田さんは、海外リサーチのプログラムでテキサス大学の藤川先生の研究室で研究に従事する経験を得ました。事前にはしっかりと藤川先生とコミュニケーションを取り、現地で取り組むプロジェクトについての理解を深めた上で現地入りしていました。藤川先生の研究室では、遺伝子改変マウスを用いて、脳による代謝制御の研究に取り組んでおり、現地では新しいプロジェクトの立ち上げに関わる経験を得ることができました。こうして、関わったプロジェクトが論文として形になる経験は、今後の原田さんのキャリアの中で、大きな糧になると思います。原田さんの今後益々の活躍を期待しております。また、学生の受け入れと御指導を頂いた藤川先生に、厚く御礼申し上げます。



テキサス大学サンアントニオヘルスサイエンスセンター 助教授 藤川 哲平

Our lab had the privilege of hosting Ami at the beginning of 2020 as an exchange student, sponsored by the International Research Clerkship Program. Ami proved to be an exceptional student, demonstrating self-motivation and a remarkable ability to grasp concepts quickly. She displayed an instant understanding of the underlying rationale behind our experiments. The paper to which Ami contributed demonstrates that the hypothalamic neurons are key for the regulation of skeletal muscle physiology. Briefly, our previous studies have shown that one of the hypothalamic neuronal groups, VMHdm/c^{SF-1} neurons, is key for metabolic benefits of exercise. In the current study, we used optogenetics to manipulate one of the hypothalamic neuronal groups, VMHdm/c^{SF-1} neurons. Activation of VMHdm/c^{SF-1} neurons recapitulates some skeletal muscle changes seen after exercise. Ami performed many biomolecular experiments including qPCR. She also helped to generate new genetically-engineered materials and we hope we can publish these data as well. Congratulations to Ami on her achievements, and we extend our best wishes for her promising future as both a physician and a scientist.



「第4回 外国人留学生との交流会」 (6月28日)
 「第5回 外国人留学生との交流会」 (9月14日) を開催しました

医学科5年 鈴木 慧士

外国人留学生との交流会「Global Hour」は奈良医大留学生支援団体NOFIS (NMU Organization For International Students & doctors) が主体となり、国際交流センターの協力のもと行われており、本学の学生や教員など誰でも参加できるイベントです。Global Hourでは留学生と日本人の双方が種々のテーマについて自由な形式でプレゼンを行っています。様々な価値観や背景をもつ学生同士が意見を交えて視野を広げることで、ただ会話するだけでは得ることの難しい、互いの社会や文化、多様性に対する理解が徐々に涵養されていると感じます。

NOFISは2023年4月に附属病院で実習を行う留学生や外国人医師を支援し交流を深めることを目的に、1～5年にわたる学生主体で発足し、留学生の歓迎会やキャンパスの案内、Global Hourなどの企画、小旅行などを行っています。また、このような交流だけではなく、NOFISは実習を終えた留学生にアンケートを通して実習の内容や充実具合などの聞き取りも実施しています。附属病院あるいは県内でほとんどの実習期間を過ごす私達にとって、彼らの意見は非常に新鮮で貴重なものであると捉えています。目下本邦では臨床参加型へと実習を変革させる流れが起こりつつありますが、アンケートの結果を総括し大学や病院へ還元することで、留学生だけでなく私達の実習の改善にも大きく寄与すると考えています。本学がより世界へ開かれた大学になるようNOFISは活動を続けていきたいと思えます。



2023年7月～9月に本学附属病院にて臨床実習を行った外国人学生を紹介します



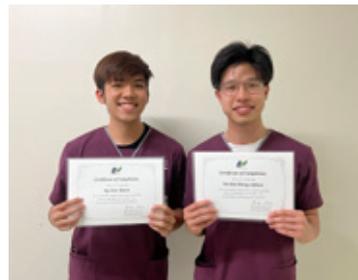
Tran Hoang Bao Ngoc (ウッチ医科大学・ポーランド)
 7/10-7/21 放射線・核医学科



Ho Hiu Chun, Chan Ching Kit, Wong Ho Ching
 (香港大学) 7/31-8/4 歯科口腔外科



Susan Trümpelmann (ヴェストファーレンヴィルヘルム大学・ドイツ)
 7/3-9/24 心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科・小児外科・乳腺外科、整形外科
 Lorenz Jenter (ハノーファー医科大学・ドイツ)
 7/17-9/10 消化器外科・小児外科・乳腺外科



Ng Cher Hsien
 Yin Kai Sheng Ashton
 (南洋理工科大学・シンガポール)
 9/25-10/6 循環器内科



Schwarz, Jan Niklas
 (フィリップマールブルク大学・ドイツ)
 8/28-9/27 泌尿器科